

第四のエネルギー

(地熱発電)

諸岡 博熊

〈阪神外資埠頭公団工務部長〉

石油・石炭に依存するエネルギー情勢は若干危機感が高まっている。一方、原子力利用については安全性、環境問題から余儀なく足踏みの状態である。これに対し、火力、水力、原子力につぐ第四のエネルギーとして、国産資源利用の地熱発電が通産省の計画に取り上げられている。

× × ×

地球の内部が高熱状態にあることは、火山爆発、温泉などからわかる。とくに火山地帯ではかなり浅部にマグマ溜りがあって、雨水が大量浸透すれば、高温、高圧の蒸気や熱水となり、それらが貯留される地層ができるので、そこまで



▲「銀の刃」地熱発電計画の概要

国名	既 設		計 画	
	容量(MW)	備 考	容量(MW)	備 考
エルサルバドル			30	三菱重工 1975年 完成予定
フランス			30	
アイスランド			3	
イタリア	390.6	ラルゲレロ	15	
日 本	20	松 川	50	葛城田 (東北)
	11	大 岳	50	八丁原 (九州)
			25	鬼 首 (鹿児島)
			10	八幡平大沼 (三陸)
メキシコ	75	セロアリエート		
	3.5			
ニュージーランド	192.2	ワイタケイ	120	
オーストラリア				
アメリカ	302	ザ・ガイゼーズ	220	ザ・ガイゼーズ
トルコ			30	
ソ連	30		26	
計	1,024.3		609	※利用したもの のみをあげた。

▲世界の地熱発電 (1973年 6月現在)

一方、アメリカでは、原子力委員会が「銀の刃地熱発電計画」を発表している。これは、地中で核爆発させ、無数の熱い岩砕をつくり、パイプを挿入して水を循環させ発電する人工熱地帯造成計画である。

ボーリングすると、蒸気や熱水が噴出し、そのエネルギーでタービンを回して発電することができ。つまり、火力発電と同じで、地球自体がボイラーに相当する。地熱発電の先進国は、イタリア、ニュージーランド、アメリカ太平洋岸などで、とくにイタリアは五十年の歴史があつて五十万キロワットを上回った発電施設をもっているといわれる。

× × ×

地熱発電の長所は、①国内資源の利用上無尽蔵である。②公害がない。③燃費が不要のため発電容量が小さくとも採算がとれる。④地域開発に蒸気、熱水が利用できる。

これに対して欠点として①一般に発電地点が特殊な遠隔地のため建設費、送電費がかかる。②ボー

リングを実施した後に計画を樹てるため、当初から机上計画がなく、計画から完成まで時間がかかる。③地熱蒸気のエンタルピーが低いので大容量のものができない。④土地の利用効率が悪く、特別な施設——蒸気・熱水輸送管、坑口設備、冷却塔などに特別の建設費を必要とする。

× × ×

世界の地熱発電の現状は別表のとおりであるが、将来ボーリング技術が発達すれば、高温度の深部熱が利用できるようになり、地上からパイプで水を循環し、蒸気に変え発電することが可能となる。とくにわが国では火山地帯の熔岩中にパイプを挿入して水を循環させる方式の地熱発電の可能性は強いといえる。

冬將軍だってアタシの家来

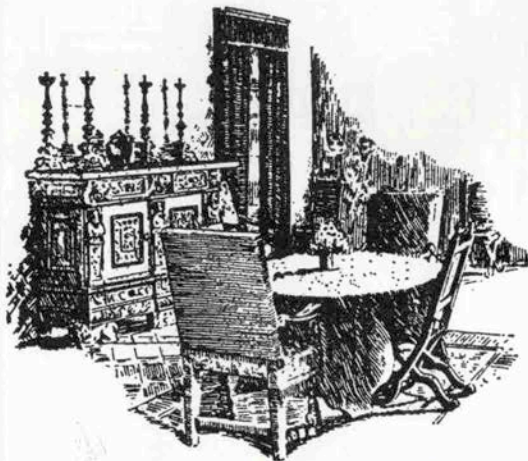


顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL331-1123

欧風家具・婚礼家具



設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL神戸(391)3737
(代表)

東京店・東急百貨店 { 日本橋店内6階 TEL03(211)0511
本店(渋谷)7階 TEL03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35
神戸木工センター TEL(078)706-5913



きものと細貨

おんがら

神 戸

西 店/三宮センター街・電話 331-8836(代)
東 店/三宮センター街・電話 331-0629
三宮店/さんちカタウン・電話 391-4303

東 京

銀座コア店/4階着物コア・電話573-5298(代)
渋谷東急店/5階和装名家街・電話462-3409(直)
日本橋東急店/4階和装名家街・電話211-0511(代)
(内線294)
池袋バルコ店/4階着物小路・電話987-0561(直)

とてもやさしい陽ざし
になりました
エレガントなあなたに
ヨーロッパの香りを
いち早くお届けします



メガネの

モリカワ

大阪店・**ファイン** 4F・神戸店・三宮 **さんぷらさ** 1F

T E L 06(361)7040

T E L 078(391)0383

★ 任 俠 放 談 ★

大親分になりたいね

——20代の男よ、しっかりしろ——



陳 舜 臣 VS 笹沢左保

<作 家>

<作 家>



★中国は兄弟分が多い

笹沢 本当の意味で任侠いうたら中国の任侠の方が本物じゃないかと思うけどねえ。

陳 中国の任侠はやっぱり韓非子にもあるように儒者とならんでいたんやね。儒者も昔はアウトローだった。儒者と俠者を同列に置いてあるわけですわ。儒者は文をもって俠者は武をもって秩序を乱すから、どっちもいけないといっているんですね。ところが司馬遷が史記を書くときに韓非子を引用して、韓非子はこういっているけれど、どっちも秩序を乱してアウトローと思われるのに、今や儒者は体制に組み入れられたと。えらくなって大臣になったり、学者になって人にほめられている。俠者はほめる人があまりいないから、かわいそうだから彼らの伝をつくると、そんな理由で任侠列伝はつくられただすね。儒者も昔は、屁理屈をいって現体制を批判していたのに今は出世してしまった。られてしまった。ところが俠者、俠客というのは永遠のアウトローで、体制に入ってしまった俠とはいえないわけですね。

笹沢 だから、いわゆる日本の俠客みたいなものよりも、スケールが大きいんじゃないのかな。

陳 というよりも、我が身を忘れて人を助けるといのが俠の精神ですから、日本もそうでしょう。

笹沢 タテマエはね。

陳 だから「俠」は人が倒れてくるのを支えてやるという字でしょう。人が四つもあるわけですよ。人偏と、右に人が二つ、そして大きくそれを支えた人とね。

戦国時代、中国の春秋戦国のことやけど紀元前の頃の俠客というのは、どうしようもない人間がいて、そいつらを助けて自分の配下に治めて暴れないようにすることをうたっているわけですね。日本の俠客とその点似ているんじゃないか。

笹沢 そうですねえ。

陳 清水の次郎長なんか、野に放つとけば何するかわか

らんという森の石松のような暴れ者を子分にしてたんですから。

笹沢 親分、子分の関係が中国でもあるんですか。

陳 ありますけどね。中国では、親分、子分というより兄弟分が多いですね。

笹沢 ほう。

陳 兄、弟という関係がね。親子もあるけれど非常に少ない。そのところはよくわからないですけど、僕の想像では理由は二つあると思うんですね。親子というのが中国では孝行ということで、犯すべからざる関係でね、それを親分、子分とするのは、冒瀆に当たるわけで、親子の関係を神聖視しすぎたことも原因だろうし、あるいは

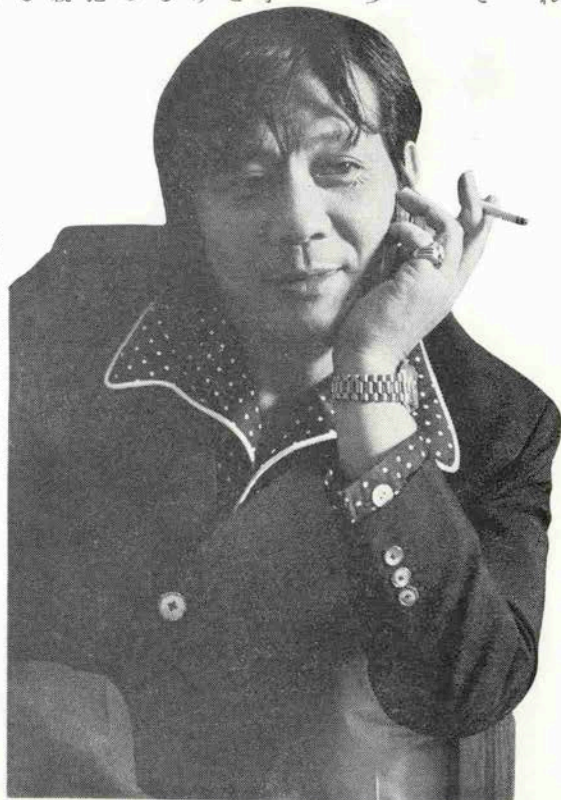
は反対に、親子という関係はのびきならない関係で、家では親父にいつも頭を下げなければいけない。それで十分だから外へ出れば親子の関係はやめておこうと。親の命令は絶対でしょう。そうなると鬱陶しいですよ。

兄弟の関係は、兄は弟に少し命令できるけれども、頭ごなしにはできないわけやね。相談すくでいかなアカン。兄弟関係の方が気楽だから、兄弟分が多いんじゃないですか。ですから、三国志や水滸伝を読むと、みんな義兄弟関係になってるんですね。親分、子分関係はあまり出てこないですよ。

笹沢 日本ではなぜ親分子分関係があたり前になったんだろう。

陳 日本の場合は、頭ごなしにやれといわれるスツキリしたのが好きで、兄弟関係だとかうしないかというようなまどろっこしいところがあるからね。

笹沢 親分と呼ばれる人はスケールや人物が子分とあま



笹沢 「日本ではなぜ親分子分関係が当たり前なのかな？」

りにも違いすぎるよね。あれが兄弟分だったらおかしいよ。親分になる人はなんといっても器が大きいよね。そうでなかったら、子分がついてこないしね。

★日本の股旅、中国の流賊

陳 そうでしょうね。包容力がなければだめですね。

それから中国には日本のような歩きまわる股旅というのがない。その代り、諸国を渡る運送業者とか郵便配達とかの人たちの中で秘密結社ができるんですが。日本の股旅は仕事で旅してるんじゃないでしょう。

笹沢 いる所がないからね。

陳 中国の秘密結社の連中はいつも他国を巡っていると心細いものだから、同じ組織のたとえば飛脚なら飛脚のボスのところにわらじをぬいで世話になる。これは仕事の関係でつながりができますね。博打しながら世渡りす

る人間いわゆる股旅というのは中国にはいないですね。

笹沢 それは日本では無宿人でない樵とか、板前とか、渡り歩く職人にあたりますね。仁義というのは彼らから出たんですね。字が書けないから口で。渡世人というのも彼らのことですね。

陳 自分がどこの何者であるかと。これは同業者だとわかる。

笹沢 仁義は自己紹介ですね。だから無宿人というのが特殊になるのかな。だいたい股旅で歩いているのは無宿人ですよ。よそ者が定着することを嫌う中でどこも置いてくれないからしょうがないし、歩いている。

陳 それは中国でいう流氓にあたりますよ。流れる無頼漢ですわ。

笹沢 流氓は無宿人みたいに戸籍からとられている人ですわ。

陳 税金が払えなくなると、つかまえられて、牢屋に放りこまれるので、逃げていく。これはすぐに群れをなして流氓となつて、何千何万とふくれ上り、反乱軍になつてしましますが、それの上ののつかったやつが天下を取つたんですよ。だから代がわりはみんなそれですわ。農民革命ですね。国民党から共産党にかわつたのもそれでしてね。だから各王朝は流氓に非常に神経質なんですね。

股旅が日本で成立したというか存在したのは、日本が落ち着いていたからじゃないですか。中国ではああいう連中がいたら流氓になつて自分たちの王朝をくつがえすかもしれないと神経をとがらせましたが、日本ではあんな連中放つ

たらかしても大したことないと、特に徳川の二百六十年間は、彼らを抱えていく余裕があったんじゃないですか。恐がる必要がなかった。

笹沢 恐がつてはいらないですね。でも、水野大老などは、日記の中に渡世人のことを書いていますよ。気にしてたんでしょね。天保だから混乱期に入ったところですが。日本の場合の俠客というのは、大名、旗本を相手にケンカしてますよ。

陳 反権力ですね。危険ですね。

笹沢 しかも江戸だし、お膝元でしょう。

陳 しかし、そういう人たちのウツブンを吐き出すチャネルをつくらなければ、危ないということもある。よつてたかつて体制をこわすというより、よつてたかつてケンカする方が支配者としては楽なんですね。

笹沢 だから幕末にいきますと完全に渡世人の大親分の意識は武士にとつてかわつている。一国一城の主という

陳「流氓が出ると各王朝は神経をとがらせてね」



意識、だから縄張りが俺の領地だと。踏み込んでくるやつはやつつけるぞと。非常に武士を意識してますよね。武士階級の衰退にとってかわろうとした意識が強いんじゃないか。親分・子分といってるけど、ある意味では主従ですよ。絶対命令でしょう。死ぬといわれれば死ななきゃいけないだし。

陳 やっぱり似てましたね、中国の俠客と。人のために死ぬんだから。

笹沢 ただ時代が遅すぎたというか、武士階級が衰退して出てきたらとたんに明治維新でしょう。だから、彼らとしてはあれ以上勢力を拡張する余裕がなかった。

陳 時間切れですか。

笹沢 次郎長なんというのは、伊豆から伊勢まで全部抑えたわけでしょう。彼の一代記というのは、徐々に平定していくわけですよ。

陳 国盗りですね。

笹沢 そうなんです。だから、たかが渡世人だとバカにできないようなやり方をしていますよね。もし明治維新が三〇年程遅れたら、次郎長はすごい権力者になったんじゃないかと思うけど。三十年たったら死んじゃってるけど。すごい力を持っていたんですよ。

陳 そういのが闇に埋れて、でも時々出てくるんですよ。山口組とか。頭山満とかいう裏側の帝王が存在する風土が日本にはありますね。

★大親分はケンカしない

笹沢 それから、大物というのはあまりケンカしてないですね。決戦に臨まないわけですよ。何をやったかという、みんな仲裁役ですね。仲裁役をやって抑えていくわけですよ。やたらに切りあいをやっている連中は自滅していますね。

地味な人なんでほとんど知られていないんですが、静岡に安藤文吉というすごい大親分がいたんです。この人

は、次郎長が全く頭が上がりませんというすごい人で、常に武器は一切持っていない。家来とか子分には武力を禁止しているのに、みんな頭が上がりません。不思議ですよ。彼らというのは実力で勝っていくわけですよ。何にも持たない無腰の人間がどうしてそんなに強いのかとね。

陳 底しれない恐しさですね。

笹沢 大物というのはそういうものかもしれないね。そういう人間になるなんて、僕には夢みたいだね。片目一つぶただけで全部治まるなんて、気持ちいいだろうなあ。(笑)

陳 大親分は、人間的魅力がないとダメですね

笹沢 それでいて、徹底して世話好きですね。晩年の次郎長が、家の前の縁台に腰かけてボヤツとしてるので、奥さんが「何してるの」ときくと、「誰かこねえかなあ、何かねえかなあ」(笑)それが口ぐせだったらしいですよ。何かあったら自分がのり出していつて「まあまあ」とかすぐやりたわけでしょう。

陳 中国では漢の高祖と、明の太祖がそういう出身で天下をとったんですよ。若い時は、葬式の名人だった(笑)昔は旅行に出て死ぬと棺に入れて送り返すでしょう。そういう手配をしてやったりの世話役で認められて頭角を表わしたんですね。人が困っていたらのりこんでいつて助けてやるというね。

笹沢 だから今の日本にはおよいけないタイプですね。今の日本人というのは逆ですよ。世話してやろうといえ、変な目でみられる。

★男らしさの復活に気のりしない二十代の男達

陳 世話するといえど姐御といわれる人がいなくなりましたね。ころがりこんできた人を世話するというタイプ。

笹沢 姐御肌といわれる女の人、本当にいなくなっただね。陳 今は昔より楽なはずですけどね。洗濯は洗濯機がし

てくれるし世話しやすくなっているのに。(笑)

笹沢 地方にいけば意外といえるんじゃないかしら。

陳 都会はダメですね。昔はやらなければ不人情だといわれたけど今は隣に誰が住んでいるのかもわからなくなっている。

笹沢 やった方が物好きだといわれるもの。赤の他人を食わせてやってとネ。

陳 赤の他人のためにやるというのが俠の精神だから、やっぱり俠の精神がなくなってしまうといえますね。男の中には、エエカッコウしたいからありますけどね。世話してやろうかという気持があっても嫁さんがウンといわない。

笹沢 それに男がだんだんと同調してしまってる。

陳 女性化、つまり精神の女性化ね。

笹沢 しかし、これからは男が復活するんじゃないかなあ。というのは一つの氣運としてね、ピークを越しましたよ、日本の女に対する甘やかし方がね。ですから去年あたりから、講演とか対談、座談会のテーマが「女をたたく」というテーマになっている。男らしさの強調ですね。意味を問いつめると、昔のというか、以前の日本の女に帰ろうということで、去年あたりから強く叫ばれてきて、再来年あたりにガラッと変わってくるんじゃないか。

陳 前途に一条の光明が差し込んできましたね。(笑)

笹沢 ところが、二十代の男がそれにのってこないという非常に大きな矛盾があるんですよ。

陳 そうですか。

笹沢 二十代の男は今のままでいいというんですよ。昔の女の良さを知らないし。

陳 知らないのはいくつもないわねえ。

笹沢 これではアカンとようやく気がついた。僕なんか五年位前から叫んでいたのに。「しっかりしろ、しっかりしろ、女性なんて言葉使うな」。(笑)

陳 二十代の人に、昔の女がどうだったかPRせなアカ

ンね(笑) 昔風の女といってもイメージが僕らなら湧くけど、二十代には無理だしね。

笹沢 親が子供にそういう教育をしてないでしょう。

陳 しちゃいけないというムードがあったでしょう。

笹沢 僕なんか、うちの息子にはそういう教育もものすごく徹底してるわ。男尊女卑の思想を吹きこんでるから。女の子をまともに扱うなと。もつともそれだけじゃないんだけど。ケンカに負けるなとか。だからボクシングと剣道やらせてるでしょう。そういうことの「貫」として「台所に入るな、冷蔵庫なんてあけるな」ということも同時にいわなきゃならない。ところがこれをやると母親をバカにしちゃうんだなあ。(笑)

陳 その点昔の母親というのは男の子に仕えた。

笹沢 いや、全く触れないですよ。というのは、触れているヒマがない。姑といっしょでしょう。嫁は姑の倍は働かなくちゃならない。朝の御飯の片付けが終ると昼は何をするか。昼がすめば晩と、とにかく一番忙しいのは母親だった。だから、子供のことをとやかくいってられないですよ。僕なんか、母親がとやかくいうのを聞いたことがない。

陳 僕も十人兄弟だから、おふくろは大変だった。今の若い母親は昼まで寝ててもいいんじゃないかなあ。弁当つくらなくてもいいでしょう。給食いうのは、女をズボラにする。

笹沢 だからね、学校へなんかトコトコ顔出すわけですよ。学校へ顔出すヒマがあったら、他に何かすることがあるんじゃないか。昔は学校へくるっていったら運動会だけです。それも、おばあさんとおふくろしかこなかった。父親はいかない。今は夫婦そろって、カメラなんかもって行くでしょう。バカだなあと。利巧にはみえないや。僕なんか子供の学校に一度もいったことがないですよ。行く必要がないから。

だから、忙しさということが女らしさの一つの重大な要素を占めててヒマになったら女らしさがなくなるにき

まってるわけですよ。

陳 家庭電化の罪やね。

笹沢 そうですよ。さつき男尊女卑といったけど、そうじゃなくて、男女同等、平等は結構なんです。同等という考え方は根本的にくつがえさないと、このままだと一種の亡国論に通じるんじゃないかと思うわけですよ。

女の人はすぐ戦争反対というけれど、何故戦争反対かというと、自分の子供や亭主が戦地へ行くからイヤだ、死ぬからイヤだというわけでしょう。ただそれだけの理由で戦争を反対している。だから何かの拍子に、戦争賛成論になる考え方を女の人は持っているんですよ。

陳 自分の子供と亭主が行かなければ、つまりボタン戦争はかまわないということになる。

笹沢 これからの状況はかなり女に対して厳しくなると思う。問題は、二十代の男が全く気のりがないということですよ。

陳 気のりがないというより知らないんだからね。

笹沢 男っていう本能が無いんじゃないかと疑りますよ。闘争心がないんじゃないかと。

陳 二十代の連中というのは、友達同志仲よしで、ライバルだと思ったりしないですよ。仲よしクラブの感じで、ぬるま湯につかっている。

笹沢 今の子供って、ケンカできないというものの。男の子がケンカできないって気持ち悪いですよ。闘争本能がないのかしら。すぐ暴力はやめようとかいってね。暴力の必要性を知らないという面は確かにありますね。暴力はすべて悪いという決めつけ方ね。

たとえば、今の学校は鉛筆けするナイフを持たせない。怪我したら大変だと。フザケルナといたいよいよ。だって昔の子供達は皆怪我しなきゃなんない。(笑)もしナイフを持たせて、刺したとか何とかあったら、学校の責任になるという考え方でしょう。ナイフというのは、人を傷つけるものと決めつけてかかる、そして暴力というものもすべて悪いと決めつける。ナイフは鉛筆をけす

る便利さもあるんだし、暴力だってある程度必要性がある時があるんだしね。そういう考え方が、今は本能的に持てないというのは、大変に母親の影響が大きいんですよ。学校のせいよりも。闘争心や侠の精神は男ならないとウソなんだが。

陳 男の本能の中にはあるんだろうけど、今や男性が精神的に女性化してるんですよ。

★強きをくじかず弱きも助けない時代

笹沢 頼まれるとイヤといえないというのもなくなくてきているね。イヤなものにはイヤというのは女性化じゃなくて合理性かな？ やっぱり女性化だ。よし引き受けたといえないんだもの。引き受けながら「えええこと引き受けた」と後悔することずいぶんあるからね。

陳 そういうことする人は、今じゃ軽蔑される。自分で苦勞をしようといふのはバカじゃないかと。

笹沢 敢然とたち向かってやるかな。僕らが。

陳 そういう人たちを尊敬するようなムードを作らなアカンわ。あの人は偉いんだというね。

笹沢 強きをくじき弱きを助けというのは矛盾してない言葉だよ。強い者に対して強い人というのは、弱い者にすぐく親切ですね。今の人たちは、強きをくじかず弱きも助けないね。浪花節がなくなったんだなあ。

陳 復活してるんじゃないの。

笹沢 内容がね、浪花節なのに浪花節でなくなった。浪花節はそもそも義理人情が主体の強きをくじき弱きを助ける精神なのに、今の浪花節はそういうことにあまり触れてない。近代的な内容ね。

陳 近代浪曲ですか。

笹沢 そうでないと今の若い人が聞かないんだって。義理人情なんてバカらしいんだらうな。

陳 聞きながらふき出したりしてね。(笑)

(於・神戸文化ホール応接室)

幼児歯科・小児歯科

佐本歯科

母親教室
(初診日)

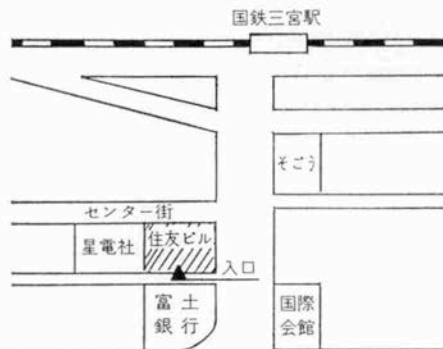
火曜日 午前10時

金曜日 午後2時

(土曜・木曜午後は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階

TEL(078)331-6302~3



〒650 生田区加納町 5丁目39

こんにちは赤ちゃん



芦屋市伊勢町／上島明くん

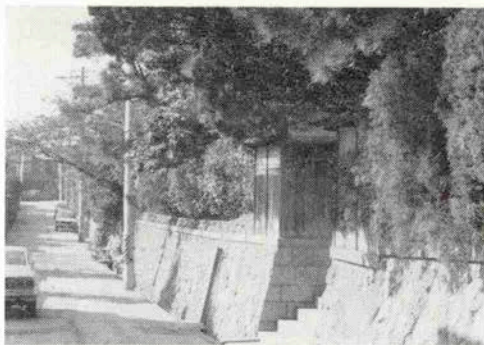
完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科

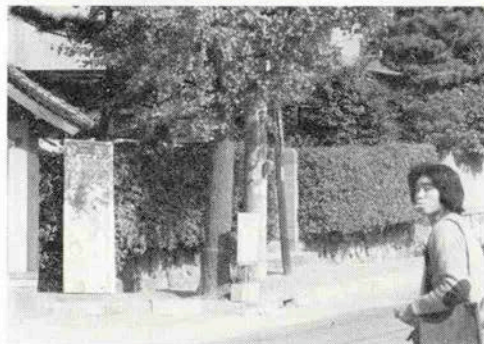


芦屋市大栴町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)

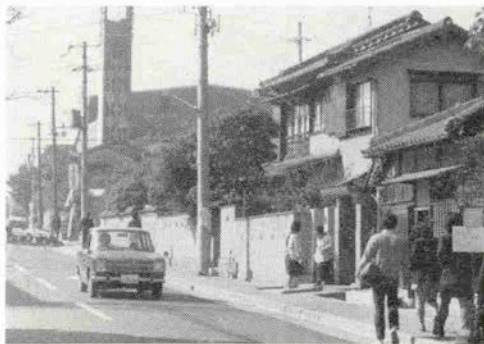
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表



住む人の人柄がしのばれる生垣



生垣は町の緑をふやします



ブロック塀や石垣を緑にしてみませんか

★神戸に緑を増やし、快適な街づくりをするために、今一番困っているのは、緑化スペースを確保しにくいことです。現在神戸市の市街地には、垂水区を除いて約920haの裸地の部分があります。これは市街地面積の約13%です。しかし、この面積の中には学校のグラウンドや工場敷地が多く、この裸地の全てを緑化してゆくことはできません。工場・学校・埋立地の緑化の努力を続けてゆくことも大切ですが、より効果的に実現してゆくことの出来る方法があります。それは家のまわりの塀を取りはずしてしまうことです。市街地のみどりの分布において最も大きな面積を占めるのは、個人の敷地内にある庭園です。しかし、残念なことには、これはブロック塀や石垣によって囲まれて多くの人々の眼には触れることができなくなっております。このことが貴重な緑地を分断させ、公的には意味の薄いものとしてしまっています。ブロック塀が生垣に変わっただけで、街の景観は随分と変わって来るでしょう。そのことによって防犯やプライバシーに関しての問題も起って来るかもしれませんが。それは生垣のつくり方や建物の構造を多少工夫することによって解決できることではないでしょうか。せっかく丹生してつくった庭を家族だけで楽しんでいるなんて、つまらないことはありませんか。街を歩いていると、家庭でそれぞれ個性豊かに育てられている木や花が見えるなんて楽しいことはありませんか。どうしてもブロック塀が、必要な方は、塀の高さをブロック一段分下げて枝ぶりだけでも眺めることができるようにしてみませんか。(畠山通之)

神戸のアーバンデザイン
《神戸のみどり》⑨
生垣をつくりましょう

水谷 顕介 + チーム・UR

81

★まだ市街化していない農地の場合にしても、また既成市街地の場合にしても、その地元の土地所有者と協同して公的住宅を建設するということになると、まず、街づくりプランづくりが必要です。プランがないままに行き当たりばったりに住宅建設を進めていったのでは、町として無ちゃくちゃになります。住宅を建てれば建てるほど街としての環境が悪くなってしまうことになっては、生活環境不良住宅戸数を生産する結果になってしまいます。また、街の方向が示されてはじめて、自分の土地を住宅まちづくりとして利用し参加することがいいことかどうか、判断できるというものです。街づくりプランづくりの対象単位をどうするか。住宅を建てるということだけなら、一つの宅地だけを対象としてやってもいいわけですが、その一つ一つを対象としてやっていった結果が全体としてまずいことにならないためのプランですから、あるひろがり対象として設定されなければなりません。数街区、100M⁴方、あるいは小学校区、またさらにひろく住宅と周辺の職場も含めて「区」の一部分ぐらいまで、と幾段階か考えられますがやはり出来るところから実績をつみかさねてといったことになると思います。新用途地域・地区の指定も決ったことですし、その制限のなかで、建築を計画していかなければなりません。また、それに加えて日照基準や人口配分などへの配慮も必要です。通風・眺望、そして街並みのデザインと相隣関係まで検討したうえでのプランでなければなりません。生垣の材料、従来からあ

った樹立ちのとりこみ方、まだまだ使える建物や保存修復していきたい建築との調和も要求されます。まだ市街化していない農地の場合には、建物を作る街区と農地として利用していく街地の組合せかたが、問題になります。

古くなった自分の家を建てかえたり修理したりすることと貸家としての公的都市住宅を数軒ずつ持つことを地元の街づくりプランの基礎においていくことによって、住宅問題解決への市民参加が可能になり、ひいては生活環境全体の整備を確かなものとしていくことが可能になります。もちろん、そのプランが地元としての市街地経営及び市街地管理ベースとなります。農地の市街化の場合には、農業をベースとして、また農業にかわる経済—生活設計を方向づけます。夫々の街でこういったプランづくりを自主的に進めていくための経費や知識を補助し援助することを、行政が積極的にとりあげていかなければなりません。またそのプランを前提として、公的住宅建設のための建設費融資や建設資金利子補助、またその入居者のための家賃補助が進められていかなければなりません。また、この街づくりプランを土台として、個々の建築活動を街並みや環境全体のなかで相互につなぐ「建築協定」が可能になるでしょう。単体の建築活動を規制しているだけでは日照問題などの建築公害は避けられません。現在の事後処理的「建築行政」を改革していくためにも、こういった具体的行動が必要なのです。

(水谷 頤介)

特集★ ミッドナイトコウベ
更夜神戸遊歴(一)

探訪者/野口武彦〈神戸大学助教授〉

魂は飛翔にあこがれ天空高く

思うに、酒を飲む男たちは前世で天使だったのではあるまいか。無意識の底には翼ある身の記憶が残っていて、魂は飛翔にあこがれ、ふたたび天空高く翔け上がろうとする。しかしいかにせん失われた翼は取り戻すにすべなく、その代りにアルコールの浮力を借りてしばしは形而上の世界を逍遥する。そして哀れむべし、酩酊の浮遊から醒めた前世の天使たちを翌朝待ちかまえているのは、時として、二日酔いの地獄である。このようにして、酒飲みの男たちは、恩寵と失墜とのドラマを永遠に反復する。

わたしたちの夜の探訪は、夕方の六時からスタートした。同行のI嬢と二人きり、と思っていたら、カメラマン兼ナイト兼用心棒のU君が終始一貫ついてまわるとのこと。ちなみに用心棒とはもっぱらI嬢のためで、わたしと彼女との間に予想される不祥事件を事前に防止するのだそう。事、志と反して一時は落胆したが、気を取り直して予定のコースに出発することにする。同行三人の天路歷程のはじまりである。

最初の道程はまずカクテルコーナー、サヴォイ。生年は特に秘すが台湾生れでよくアチャラの人と間違われる

という小林さんがシェーカーを振る。この人物、かならずしも客の好みに迎合せず、時にしたたかな返事がはねかえってきて痛快なり。サブの木村君がいきなりカメラを構えてフラッシュの閃光、不意をつかれた同行のI嬢曰く、ヒドイ店。聞けば常連とトビコミとを問わず、客の顔写真をそろえて店内に貼り出すのだそうである。勘定の払いが悪いと引き伸ばして指名手配するというから、脛に傷持つ向きは御用心、とこれはもちろん冗談。

さてこれからはコンクールでいえばわたしの自由選択曲である。ヌベールは夜の三宮のわが根拠地。アキと京子の姉妹は、いわばカウンター越しの飲み友達だ。ドアを開けて入って来た瞬間に客のムードをつかむ、とこれはアキの自賛の弁だが、男たちの例のアンジェリスム願望、平たくいえば自己顕示欲を気持よく発散させる技倆にかけては、アキは時としてほとんど心理家の域に達している。もしもあなたが鬱病の状態にいて、それでも酒が飲みたかったら、ただ黙ってカウンターの隅に腰掛けていなさい。静かに放っておいてくれること請けあいである。時にぎやかな笑いではなやぎを添える日舞の



まずはサヴォイ。時にしたたかな返事がはねかえり、痛快なりマスター(上)。ママは時としてほとんど心理家の域に。夜の三宮わが根拠地ヌベール(中)。セブンは毎夜満員の盛況。客たちはたちまち旧知のごとく。

京子、鼓の名取りである立古さんの合の手も店の雰囲気
を盛り立てる。

さてその次は、北向き地蔵のかたわらなるスタンドセ
ブン。文字通り定員七名（但し補助椅子一つあり）の小
さな店だが、そこは店主英子さんの人柄の魅力、毎夜満
員の盛況で、客たちがたちまち旧知の間柄のようにうち
とけてしまうのがこの店の不思議なところだ。今夜も今
夜で名花一輪をまじえた神戸の演劇青年たちが陣取って
いてたちまち談論風発、ここに来るまでもうだいたいメ
ートルが上がって人間以上の存在になりかけてきた小生
だが、取材の義務を忘れじとまずはママにインタビュー
一番、この店のモットーは何ぞや。答えて曰く、客をお
となしく飲ませることなり。けっきょく後で客を楽しく
飲ませるの聞き違いだとわかったが、この英子さん、酔
客の呂律怪しき話のじつに親切な聞き上手であると同
時に、たちの悪い客は決然と追い出す女傑でもある。わ
たしがこれまで一度たりともそんな目に会ったことがな
いことはいうまでもない。

アルコールの浮力が身も心も軽くしたところで、同行
三人は北野町の高台に登る。すなわち、開店後わずか三
箇月のセント・ジョージである。旧洋館を改造した店の
窓からは眼下にひろがる神戸の町と港の夜景が美しい。



北野町の高台にあるセント・ジョージ。神戸の町と港
の夜景が美しい（上）。江戸っ子オカチンと人情カア
ちゃんとの夫婦コンビのチームワークが絶妙な岡野（中）。
飄亭の桃代ちゃんは浮世絵の面影を伝える風姿。

ジョージアン・スタイルの名残りをとどめた店の構えは
なかなか豪奢だが、バブ風の親しみやすい飲み場にして
ゆきたいというのが専務さんの大村氏の弁。皮張りして
一した室内の調度がお我慢とのこと。ヤングの品のよさ
を感じさせる人物だ。

さて、われわれはまた静かな高台から町の雑沓へと逆
戻り、これも小生なじみの店、三角市場の岡野のドアを
押す。マスターの通称オカチンは神戸ではめずらしい江
戸っ子で、言葉の端々にべらんめえがまじる。人情カア
ちゃんとの夫婦コンビはチームワークが絶妙。ついつい
質問もツケを溜める客についてどう思うかと本音が出
る。答えがまた嬉しいんだなあ。ツケは貯金と思っ
てますときたね。お言葉に甘えて、またぞろアット・ホーム
な雰囲気になり来ると致しやしよう。

さて、われわれの当夜の終着駅は、飄亭。翌日にそな
えて腹を仕上げるにはこの店の雑炊がいちばんだ。桃代
ちゃんは江戸の浮世絵の面影を伝える風姿だが、いまだ
きの女性には稀なほじらいを知っておるね。そこでまた
ビールを注文して仕上げる仕上げる重ねるということに
なる。後は酔眼朦朧、落花浪藉……とまではゆかなか
ったが、まずは大過なく巡路を一周、今夜はこれにて
拍子木 大喜利。

特集 ★ ミッドナイトコウへ
更夜神戸遊歴(2)

探訪者／望月美佐 〈書道家〉

ふらふらめんこで夜が更ける

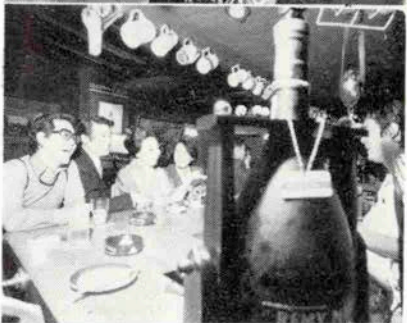
みっど・ないと・こうべ——第二夜。今宵の探訪者は酒豪の誉れ高き「女傑」望月美佐さん。随行はカメラマンのY氏と下戸の小生。寒空を仰ぐれば月は血の色に赤く、酒気を孕んだ風が陰々滅々巷を走り、一波乱必至の按配。勇を鼓して、いざ、出陣と相成った。

まず目指すは酒肆大関（えびら会館）。望月さんにとってここはわが家以上に居心地の良いところ。何しろ会長だ。会員は千余人。会員になるには既会員の推薦と入会費五百円が必要。揃いのカスリ姿のカワイコちゃん、いらっしやい、と御愛敬をふりまく。棚にズラリと会員のマスが並ぶが、黒黒々としたためられた名前には総て望月さんの手になるもの。炬燵焼きの要領で、客の注文に応じ、目の前で厚アゲ、ピーマン、タラコ、ナスなどをやいてくれる。これらは総て一皿二百円也。日本酒を飲まないのは男じゃないわ。おもむろに「美佐」と大書したマスで日本酒をゴクリゴクリ。さすがと感心している間にも、会社帰りのサラリーマンやらで続々と混んでくる。人気のある店だ。えびら会館のすぐ浜側の東

新ビル地階にも店がある。この方は会員制ではないのことだ。

さて、次はキャンティ北店となるのだが、その前にチヨット挨拶をと望月さん、えびら会館前の交番にコンパンワ。オマワリさんと思わずニッコリ。そこですかさずシャッターパチリ。道草はこれ位で、スूपとパンの店キャンティ北店へ。これも望月さんは顔染じみ。前の夜にも行ったとか。ここで、民芸の安田正利さんと合流。ねえ、マスターはどうしたの。私の来る時間、分っているのでしょう。楠晴夫さん不在ゆえの望月さんイライラの弁。まあまあとなだめるは飯尾輝雄店長。この店は楠さんのお人柄のせい、か、常連も新顔も入り乱れて（？）すぐに和氣霽露、キャンティ一家、みたいになってしまふ面白い店だ。やがてエレクトロンの演奏の始まり。曲目は望月さんの好きな「ラ・ノヴェイア」。機嫌も直り、楠さんにバイバイをして次の店へと相成った。

キャンティ北店から国鉄三宮駅へ。そこで望月さんの



上 厚アゲちょうだい。ハーイ（大関）
 中 コンパンワ、お巡りさん。ハイ、ニッコリ
 下 マスター、まだ来ないの（キャンティ北店）

知合いの古川さんが合流。遂に総勢五名。次なるはサント・ノーレ。入るとちょうど堀郁子さんがシャンソンを歌い終ったところ。堀センセー、しばらく。ヒシと抱き合う二人(若干オーバー)。ママの中谷里さんも話のなかに入り、アレコレ話のはずむうち、いつの間にか、店の男共をジロリと一瞥、「サントワマミー」の合唱が始った。サント・ノーレという名前は作家の遠藤周作さんがつけたそうで、堀さんの素晴らしい歌声の流れる店として親しまれている。聴くだけではつまらんわいという人にはシャンソン教室も開いている。粋な人種は粋な店に集まるものなのだ。

フラメンコの店?!わたし、行きたかったのよ——望月さんがまだ行ったことのない店、エル・ヴィノへ。この店はギタリストの向田俊博さんと奥田大二郎さんがこの夏に開いた。北野町にあり、毎週土曜日はフラメンコの舞踊をやっている。生憎この日は土曜日ではなかったけれど、向田さんがギターの演奏を始めると、一人で踊るにはまだ飲み足りないわよ、といっていた望月さん、やおら席を立てて踊り始める。日本人は着物でフラメンコを踊らないと本場の踊りに負けちゃうわよという望月

さんだが、着物の裾捌きも鮮やかなもの。一同、手拍子で応援。遂に民芸の安田さんも踊り出す。やがて、カステネットも入り、愈々踊りは佳境へ……。女つてかなしいわ。ふと気づくといつの間にかそんな話になっていた。

◆ 今宵の最後は花限のデイスコティック45。一歩足を踏み入れるともの凄いい音響とファンタスティックな光の渦が襲いかかってくる。花限にこんな店が、と一瞬びっくり。この店のマスターは望月さんの弟子の岡田正美さん。店については厳しい口調の望月さんだが、それも愛情からだらう。閑静な花限にこんなに楽しい店のあることは余り知られてないのじゃないかと思う。NOWな仲間の店だ。キミが若者なら行くべし! ここでも望月さん、もちろんゴーゴーを御披露。音と光のスペースに幻惑されてどうしても踊り出したくなるものだ。幾つかの人影がゆらゆら揺れて……ふいにサイケなボスターが目にとび込んだ。ワアアアアア……。

◆ さて、当所の杞憂はいずこ。今宵のみっとないところへ、かくして無事終了。さよならだけが人生さ。やがて夜が巷に別れをつけ、朝が白々とやってくる……。



上 サントワマミー。堀センセー(サントノーレ)
中 着物で踊らなくっちゃね(エル・ヴィノ)
下 音・光・音……そして(デイスコティック45)

飲んで歌ってゴキゲン！

夜が長くなった。会社が引ける午後5時ともなれば、外は暗い。そのままですぐ帰宅するのが常なれど、たまには長い夜を楽しく過ごすのも悪くない。いやむしろ精神衛生を保つ上で必要なのだ——と、あえて強調する御人もいるだろう。その御人が高橋孟さんというわけではないが、編集部では、神戸新聞第一面の笑点を担当しておられるマンガ家の孟さんをお願いして、ミッドナイト神戸探訪を願った。

比奈古多と書いてビナコッタと読む。イタリア語で小さな美術館という意味だそう。10月20日土曜日午後8時、北野町一丁目にあるこの店から夜の探訪が始まった。この日は、比奈古多のオープン前夜祭パーティで、お祝いの客が次から次へとつめかけ、店外に人があふれる盛況ぶり。ドアを開けたとたん、右手の棚には伊万里焼のソバちよこがズラリと並ぶ。三百個はあるだろう。店の主人のコレクションらしいが、見事なものである。祝い客の中に、モロッコから帰国したばかりの画家の中西勝ご夫妻をみつけた孟さんはビールで乾杯して中西さんの無事な帰国を喜び、旅行談が付きなかった。

比奈古多を出て我々は、孟さんいきつけのセブンへと向う。セブンの英子ママとは十何年来的つきあいというから、孟さんにとっては友達の家のようなものだ。「若い頃の孟さんは髪がまっ黒だったのにネ」といわれれば「いつも美しいママは、何を食べているのかね」とやり返す。7席しかないセブンは、常連の情報センターでもあり「誰がどこへいつているか」位はママに聞けば答がすぐ返ってくる。神戸の文化人のたまり場でもある。セブンから西へ歩いて3分、踊り子は、入場料500円。ビールを飲みながら踊っている女の子に景気よくクラッカーをあびせる。流行歌にあわせて日本舞踊を踊るにぎやかさは、パチンコ店さながらだ。派手にさわぎたい気分の人にはうってつけの遊び場である。

浮かれ気分の我々は、いつの間にかメンバークラブファースト・バブの椅子にすわっていた。ここも孟さんごひいきの店で、洋子ママやバーテンの竹内さんとはすっかり顔馴染みのところとか。店内は広く、ホテルのロビーといった雰囲気。そのため社用でよく利用されるという。週休二日制の昨今、土曜日の夜は案外とヒマ



(上) 比奈古多で中西ご夫妻と
 (中上) 稲荷神社の横にあるセブン
 (中下) にぎやかな踊り子で
 (下) ごひいきのファースト・バブ

で洋子ママは我々をゆっくりとまでなしてくれ、コック長志田山さん自慢のバーベキューをごちそうになった。

料理の味もすばらしく、酒と料理が楽しめる店であるが、会員でないで利用できませんので一言。ほろ酔いで歩く我々に、ラーメンのうまさそうなおいが迫ってくる。それもそのはず、にんにくを配合した特製の味噌が特徴の龍潭ラーメンのおいであつた。足は自然とのれんをぐぐって、口はラーメンをすすっていた。杉本宇野子おばさんが「ラーメンとビールは意外と合うんですよ」とビールをついでくれた。ラーメンの温い汁に冷いビール、うまかつた。

胃も心も満足した我々は、最後の仕上げに、孟さんの歌を聞くべくしゃねるへと。偶然に田辺聖子ご夫妻と顔合せ。孟さん気をよくして歌った歌つた。十八番の「春団治」、セリフがいいねえ——わいは女が好きや……ほんなに好きや……。しゃねるのあや子ママがタイミシングよくマイクを田辺さんにわたすと、「瀬戸は日暮れて、夕なみこなみ——」響きのある声に全員ききほれて、秋の夜は静かに更けていった。

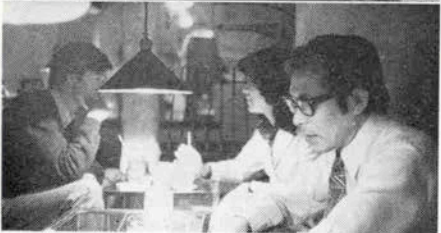
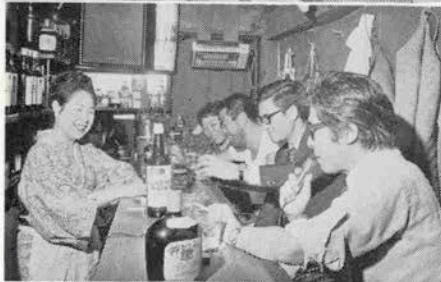
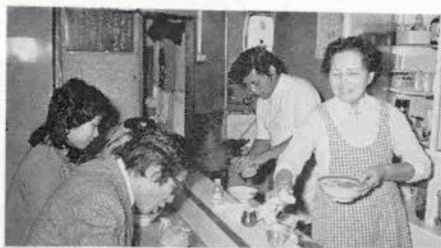
この日にまわれなかった花屋敷とドン・ファンは日を改めることとあいなった。

10月27日第二日目の夜。市役所前の花屋敷に午後8時再会。今夜はどのような夜になりますやら。

花屋敷のマスター水原良夫さんは、「現在改装するか移転するかを検討中で、12月号が出るころには今の店はないと思いますが」と前置きされていたから、もしこの記事を読んで花屋敷を訪ねられんとする人は前もって電話で確かめられた方がよろしい。水原さんはかつてパラダイスキングのメンバーの一人だったので、店で自慢の声を時々披露するとか。ダンスも出来るフロアーがあり楽しめる店である。

それから車で阪急六甲駅近くにあるドン・ファンへと。黒ずくめの花柳芳恵一子さんが笑顔で我々を迎えてくれた。オープンして三カ月というのに、店内には常連がいっぱい。インテリアや置物が恵一子ママの趣味なのか豪華である。しばらくして空いたテーブルに陣どつた我々は、孟さんの胃カメラ検診の色気ない話を、孟さんの身ぶり手ぶりで夢中になって、色めきだつて聞く。

ドン・ファンという店名も店内もママも色気ある店であつてそんな話題になったのか今もって思い出せないが、孟さんが話すと何やら色めいてくるから不思議である。今夜も静かに更けていく秋の夜長であつた。



(上) 家庭の味——龍潭ラーメン
(中上) 洗いのどの孟さんとしゃねるのあや子ママ
(中下) 豪華なドン・ファンのインテリア
(下) 眠ってるのかな(花屋敷で)

女は何故ひとりお酒を飲む？

探訪者／小山乃里子(アナウンサー)

女は何故酒を飲むのか、田辺聖子さんみたいに、それはですねえとカモカのおっちゃんが現われるわけでもなく、ましておや、うちの健さんが(もち高倉の健さんのことである)ノコ、今夜も飲むかい、なあって横にいるわけでもなく、さりとて、舌に透み入る酒の味をわかる程の年が入っているわけでもなく、勤めのつらさをぐちるには、こちとらフリーの身、ぐちの対象多すぎて、

本当に、朝の早い仕事をかかえてるんだから、さっさと家に帰って、一年に一度位回って来るテレビの仕事にそなえて、バックなりマッサーなりをすりゃあいいものを、つけまつげだってパーゲンだったので2つも買い込んでまだ一度も使ったことないの、つける練習でもしてごらんよ、レイモンド・チャンドラーの本を五冊も買ってこれでもまだ一冊しきや読んでないし、カーメンマクレエのレコードも聴いてないし、あーあ、うちにいりややることいっぱいあるのに、何故女は外で酒をのむのか。ひとり身の侘しさを嘆くのか、なんて気取ってみても、これでもかなり長いことやってるから今更かゆう顔でみられそうだし、もうええかつこやめ、ようするに馴染

みの店で顔見知りをつつけて、やあやあとききたいだけの話なのだ。

昨年の秋に店開きをした井戸のある家は、開店当時から、店の中のオーディオルームでDJをやっていたので馴染みどころか、当初は逢う人びとに、一度のぞいてみてよなんてかなりしつこく宣伝してまわって、それが、この私がDJをやめてからの方がお客がたくさん入るとは何事か、あんましやないかと、店の自慢の井戸に飛び込んでやろうかとも思ったけど、ここの山田くんも田中くんもとても紳士なので、多分逆さになった私の両足を片っぽづつ持って引き上げられるんじゃないか、そうなることごろずつとすかあとなんぞはいている身にはかっこ悪いやんか、と思いとどまり、そのむなしさで一杯飲むのである。

ついでに、ユダヤ古来の麦と牛肉のスープだとか、胡椒のきいたソース付きのステーキなんかも食べちゃうのである。

ソネ、一週間程休んでるよって聞いてたけど、行って驚いた。ロンドンで夜の街をさまよってひいとい入った



▲美人のママさんといっしょに MAYHWA で
▼珍しい井戸のある家



バブみたい、ぐいと奥が広がって、れれれ……って感じ、それになにより、すごいオーディオルームがデンと店の中央に輝やいていて、J・B・Lから流れて来るマッコイタイナーのピアノなんざあ、心のひだの隅々にしみこむようで、ピアノにもたれてうっとり目を閉じかけたらピンピン、耳もとからベースの音、毎晩やってくるトリオの演奏が始まったのだ。神戸にやってくるジャズブレイヤーが一度はのぞくという「ソネ」をあとに、わが隣組みティファナーへと出かける、ここの玉利クンも新開クンも私の下の階、つまり同じマンションの居住人同志であり、とはいっても朝早くから夜遅くまで仕事に(っ)おつかれられている私と、ゆったりと朝のねむりをむさぼっている彼等の間には、おのずから精神的落着きの面で差があり、だからのんびりマリアッチなどをかなでていられるのであろう。えっ？、これは商売だって？、ワルイワルイ！ 昨年の夏のものびりすぎたメキシコをおもい出し、マルガリータなどを飲みながら、タコスにかぶりついた次第。

メキシコから中国へ、歩いて五分、というのがこれ又

▶ 生演奏とオーディオルームですごく「こきげんになったレストラン」「ソネ」

▶ 愉快な仲間がいっぱいいるメキシコ料理の「ティファナー」です

神戸の魅力の一つ、メイファはとても料理がおいしくて、焼きビーフンや芙蓉はいなんか、隣のやつにやるもんかとつい一人占めしてしまう。

毎日放送で、毎朝さわやかな声を出している美女二人顔をつき合わせ、ディレクターの悪口などは口がさけても言わず、男性の好みも夫々がうし、なんの話してるんかなあ、いつの間にかメイファの口からジャズのナンバーが流れていた。

それからピツアを食べに行ったんだから、ほんま、よく食べる。ここビノキオの太田クンも、何をかくそう我がマンションの住人で、彼は私のすぐ上の部屋なのだ。ああいい車が駐まってるな、と思うとこれが又彼の車だったりして、なんとなく気になる男で、女の子のお客が多いのもうなづける。

モチ、ピツアのおいしさ、毎晩ひき語りをしている小塚クンのうたのうまさも忘れてはいないけど……。あー今夜も神戸の街並みがきれいです。どれ、六甲の山中まで帰るとするか、それにしても何故女はひとり酒をのむのか。

▶ ピツアがとってもおいしい若者の店「ビノキオ」



笑児さん 出番ですよお

夜ともなると風も冷たく、思わずコートの衿をたてたくなる10月25日、ミッドナイトコウベ探索とばかり、なれない夜の街を歩いてみた。

昼間この辺を通ると、何だかシラケる街並だが、日暮れになると活々と見えてくるのだから不思議だ。迷路のようにいりくんだ道々にネオンの文字が輝き、華やかだが複雑な表情を見せてくれる。

さて今夜の探訪者は、TV・ラジオで活躍中の西条笑児さん。電話での打合せだけで、初めてお目にかかるわけだし、私ときたら夜の街を歩く……なんて雰囲気の間ではないので、足手まといにならないようにしなくちゃと思っていたのだが、お会いしてみると一見こっぴどい感じがするけど、気さくで楽しい方とお見受けし、ひと安心する。

まず最初に訪れたのは東門筋の北海道郷土料理の蝦夷。このママさんが、大空真弓と中山律子をたして二で割ったようなピリカメノコ。その上、北海道から毎日、航空便で送ってくる新鮮な蟹や魚を食べさせてくれるのでなおい。カウンターのところにある丸太で作っ

た重い椅子もまたとっても良い。ここでは、馬鈴薯のパター焼や柳葉魚など食して、私はもっぱら食い気一筋。笑児さんは意外や意外、なかなか小食でジャガイモをつつきながら水割を飲んでいた。北海道はもう今ごろからシバれるだろうなと思いつつ席をたつ。

やけに人通りが多いなと思ったら今日、給料日の会社が多いのだそう。どうりで外の寒さにもかかわらず、あったかそうな顔をして歩いている人の多いこと。こういうお給料日の楽しみなどタレント業では味わえないであろうと思ったら、お勤めの経験もあるそう。

次いで訪れたのが生田新道のスネカジリッ子。カウンターの奥に居るのは若い男の人ばかり、マスターもまだ随分と若い。スネカジリッ子のマークが付いた特製ミニチュアびんに入ったウイスキーと水が出され、自分で調合して飲むことができる。丁度、日本シリーズの前でもあり、巨人、いや、南海、阪神は惜しかったなあ」と野球談議に花が咲いた。ちなみに笑児さんは大洋ファンだそう。

山荘へと足をのばす。このマスターは非常に楽しい



(上) 蝦夷の美人ママと(中上) スネカジリッ子で飲む(中下) 山荘の愉快なマスターと(下) 盗賊の館でGOGO /

方で、商売とは言え、なかなか気のきいた勘のよいおしやべりのできる方である。これには、さすがの笑児さんもビックリ。山荘のモットーはお客様と大いに楽しく遊ぼうじゃないかノというのだそうでギターの生演奏もあり、リラクセスしたムードのお店である。

どんどんと調子よくまわり、東門筋の盗賊の館へ侵入する。入口をあけ階段を上がろうかな?と思ったら、上の方の扉が開きホストの方が出迎えてくれる。入口にお客が来ると中に二ヶ所、電気がチカチカつつか。盗賊の館だけあって、どろぼうが入れないしかけになっている。『全員集合』へいお頭とは言わなんだが、このかけ声で、客も店の人も皆、まん中のフロアーに集合。ドライアイスの煙が床をほう中で、手をつないでの盗賊の館おどりからGOGOまで。ひとしきり体を動かすと何だかとても気持ちが良い。

出発進行とばかり次の加納町三丁目のガスライトへ向かう。ここまでのお店で、かなり水割りを飲んだはずの笑児さんだが、顔色ひとつ、足どりひとつ変わらないのは、本当にお酒が強いのか、はたまた隣でジュースやコーラばかり飲んでいるのがついて歩いているからなのか、さだかではない。

ガスライトは、カウンター越しに見える奥の方が、紫煙でけむっている風情など、何とも言えず絵になる所である。その上、カウンターには一人で本を読んでいる美少女がいたりしていい雰囲気。

ここから坂を上り、北野町のYANAGASEへ。赤煉瓦に蔭のからまる外観もいいが、中も静かだ。マントルピースに、この冬初めての火を入れ、ご主人のお話を聞く。丹波から運んで来る丸太のままでの薪の話やこういう商売のきびしさなど、芸能界とも共通する裏話に、華やかなスポットライトの影を見る思い。じっくり腰を落ち着けたくなる店だ。さつきガスライトで出会った二人連れにまたここでも出会った。

このコース終点のニューポートホテル隣、デキシールランドへとタクシーに乗る。ここはデキシール狂のメッカであり、神戸らしいバタつくさい店でもある。マスターはちょうど、ピアノ演奏中。

『酔っぱらうて、どないして家へ帰ったんかわからへん時もあるけど、今日は無事に家へ帰れそうやなあ』と笑児さん。明日も早朝のラジオ番組があるのだそう。いまなんどきですか?と時計を見ると、ちょうど午後11時45分。神戸の夜は、まだまだこれから。



(上) ガスライト、紫煙にけむる奥に風情が
(中) YANAGASEで、マントルピースに火を入れて
(下) デキシールランドのピアノバーで